

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

正式には、盂蘭盆会という祖先の霊を祀る、一連の行事のお盆だが、今年は新型コロナウイルス感染症防止からか、帰省フラッシュは

例年ほどではないようだ。祖先の霊を迎える行事だが、かつては太陰暦の7月15日を中心に行われていたが、明治期の太陽暦(新暦)の採用後、新暦の7月15日に合わせる農繁期と重なって支障が出る地域が多かったため、新暦8月15日をお盆とする所が多くなった。日本古来の祖霊信仰と仏教が融合した行事だが、全国一斉の盆期間の弊害を避け、過密を避けるべく、盆の在り方を、地方経済の活性化を視野に議論も可能なのかと考えてしま

う。大北地域北部では、

お盆までに、水稻の穂が出そろえばと言われているが、耕作条件の悪い圃場の穂はまだ出そろっていない。また「秋そば」は7月末か遅くても8月第一週末までに播種できればと言われているが曇天で思

の農業現場の声が切実に聞こえている。8月上旬に農林水産省は、主要な野菜について価格の見直しを、長雨・日照不足や低温の影響で生育が進まず、値上がりしている

下で、午前中にも完売してしまう状況に、農家からは今年の不作を恨むばかりだ。歳を重ねる毎に、長寿のお祝いの呼び方に関心を持つようになってきた。60歳の還暦は満年齢だが、その他は

当たり前前の伝統行事の在り方を見つめ直す事も大切だ

来稀が由来だ。古来は、めずらしいと詠ったが、その歳を迎えてからの生き方を改めて

考えなくてはと思う毎日だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



白馬村の松沢正猛さん。地元に適する、強い耐病性の「リトルジェム」に熱意を注ぐ